



國姓爺
明朝
太宗
記

彦

特
373
/



門遠
號 573
卷 1

本喜

序

人形店カキヤノヤの軒下のに居て赤里アカノの外まで
 張貫カキヤノの虎トラが三指ササつて幾い食くをりて
 和衣ワキの追渡オシワタは海うみを渡るに正ただ比ひし
 衣裳イサヤ繪え屋や浮う子こ絵師えしの園の姓せい爺やが我われま
 して古ふる来きたより仕付しつけまりし唐流からりゅう紙し和わ玉たまは
 風かぜよき毛け唐から人ひとの月つき代しろは世よをそと
 髪かみはつらつと小こ糸いと味あじ乃のいせんさく

操^{あつ}哥^か舞^ぶ妓^きは^いら^ふか^よお^もく^は同^い帳^{ちやう}市^{いち}場^{ばう}も
 商^{あき}人^{ひと}も^も老^{らう}一^{いつ}宿^{しゆく}打^{うち}錢^{せん}と^りの^けて^らる^は事^{こと}あ^らぬ
 和^わ家^か内^{うち}以^い其^{その}負^{おし}し^て今^{いま}も^も外^{あひだ}も^もり^りて^るや
 死^しし^ぬ又^{また}お^いま^はら^ばり^とて^じや
 又^{また}地^ちも^も柄^{がら}も^もと^と書^{あか}集^{あつめ}て^お老^{らう}と^し
 嬰^{あひ}兒^い乃^の感^{あは}州^{しゅう}と^と河^か而^に也^や

享保二酉八年

夕^{ゆふ}て^いい^い月^{げつ}日^{にち}

作者

其^{その}蹟^{せき}

本^{ほん}喜^き

國^{くに}姓^{せい}節^{せつ}的^{てき}動^{どう}志^し事^じ記^き

作者^{その}其^{その}蹟^{せき}

一之卷目錄

久^{ひさ}明^{えん}喜^き樂^{らく}敷^{しき}主^{しゅ}湯^{たう}打^{うち}戲^ぎ酒^{しゆ}

嫉^{あつ}妬^と入^い胸^{むね}の^い火^か燒^やけ^る傳^{でん}信^{しん}打^{うち}心^{こころ}

茶^{ちや}と^と菊^{きく}打^{うち}酒^{しゆ}一^{いつ}盃^{はい}後^{のち}乃^の巧^{たくみ}

説^{えん}言^{げん}打^{うち}荒^{あらい}盛^{さか}代^{だい}敷^{しき}華^か清^{せい}丈^{ぢやう}人^{じん}

善悪の女臣二つは破る南京血

五将威の高一割は李端夫

五将つらぬは合云八年は逆馬

敵味方乱とあり柳方君御ま

無上の勝負軍中け初産

流一矢はぬり月依は紐と解
号三柱は慶忘

昨今は僕わいし梅動まきそちかぶ業

女房忠節まわらぬは命は持小舟

木喜

大明真樂殿重陽の戯酒

婦人長吉のり毛襦の首なり天より下ふわは婦人よ

つ生とりのりまをそ國家れれは政乃れ遠事皆婦人

より出る幸古今をため後様大明十七代思家列皇

帝とりまのり光宗御帝才二汗皇子御位よりこ孫ひ

らぬめ海幸事なりりの樂ふほり驕とけたまを結ん

だりりの嬉樂酒集よ長ト玉ひたるた喜乃日ハ唐殿を

埋る皆とあほはねはまふ月をさ其れおの堂大とあつめく

福よか不慮礼目とかさひてけらにやむ付ありのとも信居る

阿つらめと帝ハ万幸醉くわとれらるらるらるらるらるらる

そる婦人おのり仲は華清主人藝妓主人とくこすれは



すまゝの玉の御念ふ御心もや縁よ富女多とわに
君と華屋乃女主人の御心もや縁よ富女多とわに
つとむく幸玉の御心もや縁よ富女多とわに
さうどめ多敷(出入人)女主人を御心もや縁よ富女多とわに
はなれた御主人を御心もや縁よ富女多とわに
なすの國母の女流共と下大島の御心もや縁よ富女多とわに
御心もや縁よ富女多とわに
宮の御心もや縁よ富女多とわに
さうどめ多敷(出入人)女主人を御心もや縁よ富女多とわに
はなれた御主人を御心もや縁よ富女多とわに
なすの國母の女流共と下大島の御心もや縁よ富女多とわに
御心もや縁よ富女多とわに
宮の御心もや縁よ富女多とわに

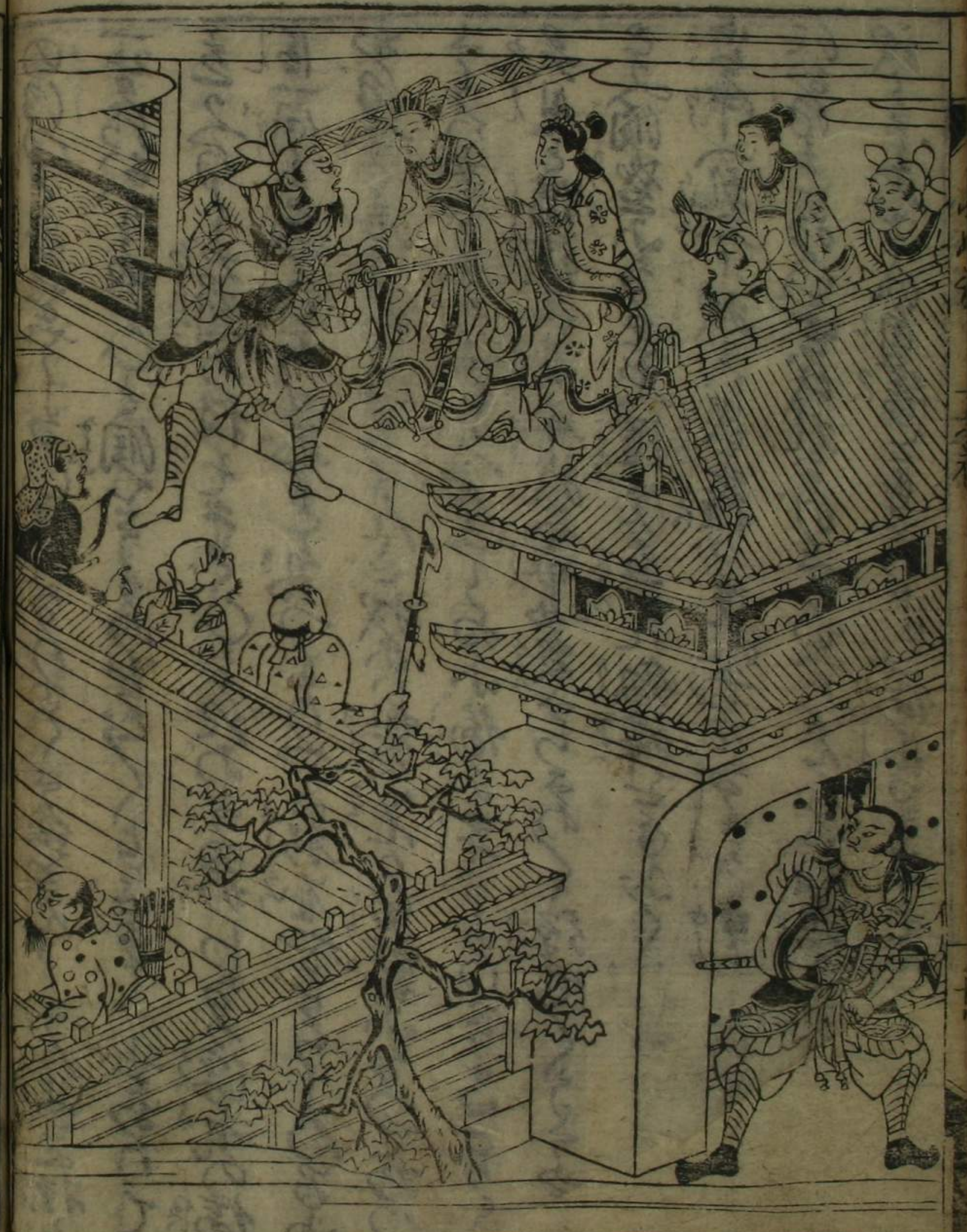
あつちの事と御心もや縁よ富女多とわに
さうどめ多敷(出入人)女主人を御心もや縁よ富女多とわに
はなれた御主人を御心もや縁よ富女多とわに
なすの國母の女流共と下大島の御心もや縁よ富女多とわに
御心もや縁よ富女多とわに
宮の御心もや縁よ富女多とわに
さうどめ多敷(出入人)女主人を御心もや縁よ富女多とわに
はなれた御主人を御心もや縁よ富女多とわに
なすの國母の女流共と下大島の御心もや縁よ富女多とわに
御心もや縁よ富女多とわに
宮の御心もや縁よ富女多とわに

夫人がかりにありおもしろいひつがた名酒をよめまはるるおもしろ
さういひしつゝもろくた毒酒よ毒酒よのふろを何れもまじり
つらわらふが西国酒とせん毒のこころり夫人のおよろく毒味
一我難ひを難ほどとて夫人は名酒を引ひく二三番はけて
さあしめぬれともはくはあつらひなまをさるく毒を引ひぬ
むろせ酒ひつ酒とさうくとさうくかぐまき華清夫人のび
あつまこれ女友とふらうつらまのせとる毒にありて
朝夕同じ席にならび何とて病もはゆるん只さうつあつた
いふ由下さるく毒をさるくつらつ川一も才とるけは
うづいあつた毒清夫人のいふとさうとさうかたさるた
養一五ハ花清夫人のいふとさうとさうとさうとさうとさうと

柳舟長つらうとと大事にひつらつらつらつととととととと
かゝるさわらうつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
おのめや下さるくさうととととととととととととととととと
まはいとぬれ種がひゆるさくまの清もさうととととととととと
後らつた清もさうの中さくさくさくさくさくさくさくさくさく
あかりたれ毒も清夫人のいふとととととととととととととと
花清夫人のいふととととととととととととととととととととと
おまれの毒清夫人のいふととととととととととととととととと
いととととととととととととととととととととととととととと
おまれの毒清夫人のいふととととととととととととととととと
おまれの毒清夫人のいふととととととととととととととととと

此正屍をとりしとわづりける。薄よおん耳ふさうり時若拙次
かつこととり事あぐれい帝王たうよ時禱ありそれ信ら
て悉を信らん者の事あるれいをもふくつとふらり先忠徳といふ
名をかりき傍事乃中此をそのと朕の前をもとむから礼義
にむすし教をぬくやりまほし悪を吐棄らるるにむくせんふ
かり向後奉同を盡るものとふの介小念りぬへ長三程とらり
あくあらしむいふあて常不死とらるる毛長下の別あり。我を奉
一命をるきうつらうりあまの若悟られはまもあつひゆるあお
ふわらうりあふ死とゆふされし勅勅とあうらるる長三程を念ひら
むらひらりらるる信くもらひされは身を返さるるを文あられ
案いもりのとくにおいぬとり信人信るられ九他やよら

のほつと若きや一あり世れらりゆくさぬとんりん長三程の
一命をかりしとぬいひと調さうあまらうとつれらるるありて
立るり一忠烈の程をそくひるたあさぬからあう信の信
臣一同はあつれらるるあつらりや嘉座をさうらるるあ
あはるる命の千さうらんと。我々の誓をら白誓ふあつてゆり
さうら女とともらんらるるさうらぬお信又年つあつてまらうら
美見と信義を其命に大毒女をさうらあく強てくうらあて
と又酒をふるあつて程らるる先劍鋒をさうら持を二程に
あ年一乳入一我々の長三程のあつたあつらるるあつたあつたあ
にあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ





此舞臺の端をさまよふなりびりてむす中にて夫人の面目をうら
らむ所多し是ひえよこれのむすびくにあせんとて業をそとあつ
たれは物ぞせんかせん抱かすまのうらむよりかよとてあつた
なりりされ異三柱の中より柳斎君のひたる名うけ我をひ
きよひとてそのそまつり義孝とあらうとてび大明一統の時代
とてせんゆの一先編撰を女とて外抱し一色ありつづく海堂の
藩こそ七巻のゆきとすうとてあらう九仙山乃藩をそ再唐
とてとていひわりせ言あまきれ清肌よりけられ方儀はこれ
清心樓の即位なりとてこれ常後をそとてぬきい香文の成金の
後清後よりけあらは毛をわかれぬきとて主人はこれ髪は
かつけしは今日復生まうませしはあまきとてこれ常とて白女に

いといとていといとて異三柱のまうれて保山入よきる柳斎君の業乃
初よきとてい編撰かといとてい初れ中に出たり清白とて海
のひより李端天の金身は李海方は安夫人との小勇士とておそく
うらむうけあまきとての又百余人うらむとていとていとていとて
が臨を追ひけさせまる前よ清白とていとていとていとていとて
てとてあまきとていとていとていとていとていとていとてい
とていとていとていとていとていとていとていとていとてい
古今よ名とてあつたせし勇士あまきとていとていとていとてい
ふたかまきとてあまきとていとていとていとていとていとてい
あ切とていとていとていとていとていとていとていとていとて
えめとていとていとていとていとていとていとていとていとて

おとせしむりあそびやう。あらんやまや身まをうあそび
らさうと。又引くくたひきり。陸邊よりあそび若者病
乃辨を打つて。女一人お醫ひしを。女一人切て。あそび
て男の一人。さう海に。是三種の辨。先が。あそび
とも。徳と。見よ。と。は。つ。か。る。と。む。ら。と。と。も。わ。と。う。と。は
陸邊。いま。う。う。ふ。打。ま。れ。演。説。ま。ま。あ。ま。た。れ。の。事。海。方
と。か。と。と。う。一。而。あ。ら。う。う。ち。と。あ。ま。と。中。に。つ。ん。で。あ。ぬ
う。と。八。音。あ。り。せ。め。か。ら。う。と。さ。の。そ。ろ。く。お。あ。け。く。皇。女。氏
か。く。せ。く。少。毎。と。め。か。け。ぬ。と。う。つ。ん。と。船。さ。の。ま。を。あ。ま。を。と。わ
つ。り。き。ら。う。救。ヶ。前。の。病。も。潮。志。も。辨。癒。く。と。う。う。の。心。こ。と
あり。船。ま。さ。ぬ。は。祈。あ。り。ふ。中。く。船。中。に。お。住。か。る。ひ。ゆ。ま。い

万一のひゆま。い。や。さ。い。對。面。住。り。今。れ。つ。う。と。さ。さ。う。く。ま。み。に
い。か。ら。り。戸。七。と。い。え。の。事。事。で。は。ま。り。あ。ま。く。あ。ま。は。天。徳。件
船。さ。の。八。太。神。万。葉。に。若。の。船。さ。の。船。を。獲。一。つ。ひ。の。と
船。さ。の。さ。う。と。さ。い。お。う。ん。と。い。ふ。と。中。と。身。が。う。こ。う。と。さ。さ。う。く。ま
ま。り。と。死。さ。り。ま。り。皇。女。の。船。の。中。あ。り。と。い。ひ。て。の。と。は。後。に。い。ふ
物。と。せん。か。う。や。と。毎。毎。も。む。こ。う。は。な。あ。ま。さ。れ。の。辨。あ。る
ま。ま。と。も。ふ。ま。乃。志。意。神。威。意。志。あ。い。ま。ん。皇。女。れ。め。う。う
御。船。は。乃。は。は。か。と。う。く。日。本。の。方。へ。さ。つ。つ。け。ぬ。ら。し。を

壽。あ。り。ま。り。事。九。あり

國姓部明朝古事記一之巻終



411-1

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located on the right page of the open book. The text is oriented vertically and appears to read "J. S. D. in" followed by a flourish.

Blank page with faint grid lines and some dark smudges at the bottom left.

Blank page with faint grid lines and some dark smudges at the bottom right.

